

企業の社会的責任(CSR)と責任あるビジネス

MCRBは、企業の社会的責任(CSR)を「企業の社会への影響に対する責任」として定義しています。これは、CSRに関する2011年10月の政策の中で、欧州連合(EU)が採用した定義に沿ったものです。私たちは、ビジネスと人権に関する国連指導原則(UN Guiding Principles on Business and Human Rights)、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、そしてOECD多国籍企業行動指針を重要な参照事項として理解しています。

責任ある企業とは？

ビジネスはそれぞれ異なります。それでもなお、MCRBは、責任あるビジネスの特徴は、いくつか挙げられると考えます。

- 法律に従うこと
- 人権を尊重すること
- 汚職を避け、賄賂を払わないことに献身すること
- 税金を支払うこと
- 従業員を尊重すること
- 環境を尊重すること
- 責任を持って他のビジネスに接すること
- 責任を持って顧客に接すること
- 透明であること
- ステークホルダーに対応し、連携すること

一部の企業は、社会的投資を行い、または、他のCSRや慈善プログラムを行うことで企業の社会的責任の充実に努めています。

バックグラウンド

英国に本部を置くInstitute of Human Rights and BusinessとDanish Institute for Human Rightsとの協力に基づいたMyanmar Centre for Responsible Business (MCRB)は、英国、デンマーク、ノルウェー、スイス、オランダ、そしてアイルランドから資金提供を受ける、ヤンゴンを拠点としたイニシアティブです。2013年に設立された当センターは、地域のニーズと国際基準に基づき、ミャンマー国内の責任あるビジネスに関する知識、キャパシティー、そしてダイアログを生み出す効果的で法的なプラットフォームを提供し、結果として、より多くの責任ある企業活動を生み出しています。中立なプラットフォームでは、ビジネス、市民社会、そして政府との協力を実現しています。

www.myanmar-responsiblebusiness.org

www.mcrb.org.mm

Vicky Bowman, ディレクター

vicky.bowman@myanmar-responsiblebusiness.org

Hnin Wut Yee

調査研究及び市民社会活動促進担当マネージャー

hninwut.yee@myanmar-responsiblebusiness.org

Wai Phyo Myint

地域活動支援担当マネージャー

waiphyo.myint@myanmar-responsiblebusiness.org

Phyu Phyu Zin

プログラム及びコミュニケーション担当オフィサー

phyuphyu.zin@myanmar-responsiblebusiness.org

Myanmar Centre for
Responsible Business



ファウンダー



現在の中心的資金提供者



ミャンマー・センター・フォー・レスポンシブル・ビジネス

15 Shan Yeiktha Street, Sanchaung, Yangon

Myanmar. Tel/Fax: +95 1 510069

PWINT THIT SA (TIME) プロジェクト

ミャンマー企業の透明性(TIME)としても知られているThe Pwint Thit Saプロジェクトは、腐敗対策、組織の透明性、人権、健康、安全、そして環境といった分野においてミャンマーのビジネスが更に透明性を促進することを目的にしています。プロジェクトは、Transparency Internationalの「企業報告における透明性(Transparency in Corporate Reporting)」に基づいたフレームワークを用い、公表された情報を根拠として、企業を評価します。

2014年、プロジェクトは、どれだけ情報が会社の公式ウェブサイトやソーシャルメディアのページに提供されているかをみるために、ミャンマーの大手企業60社を調査しました。このリサーチ・プロジェクトのため、企業は、内国税収入省(Internal Revenue Department)(IRD)によって公表された高額所得納税者上位100人と高額商業納税社上位100社のリストから主に選ばれました。地元企業のみが選ばれました。これら2つのリストには入っていない、他の大きく主要な地元企業も、加えられました。MCRBによる最初の調査について、企業は、MCRBがウェブサイトで見つけた情報に関してアドバイスを受けました。企業は、より多くの情報を公表し、未だ持っていない場合は適切な方針を採用するよう推奨されました。ウェブサイトの最終チェック終了後、7月に結果表が公表されました。この過程は2015年に繰り返される予定です。報告書は私たちのウェブサイトです。



アウトリーチ・プログラム



私たちの核となる活動

MCRBは、責任あるビジネスについて、参加型の方法で、証拠に基づいた知識を得ようと努めています。私たちは、ミャンマーでの責任あるビジネスに関する事実、必要性、そして優先性について共通の理解を構築し、ビジネス、市民社会、そして政府間との対話のためにプラットフォームを提供することを望みます。私たちは、ミャンマーにおいて責任あるビジネス慣行を実行するにあたり、これらの重要な参加者たちが、各自の役割や責任を果たす能力を高める支援をしています。私たちは、環境社会インパクト評価(ESIA)やCSRプログラムといった、政策や規制上の問題に関するアドボカシーにも携わっております。私たちは、外国人投資家に対して、ミャンマーのビジネスと人権にかかわる展望について、初回アドバイス(無料)を提供しています。私どもは、外国および国内の企業を関連のある地域のステークホルダーとイニシアティブに接触させ、また、より理解を深めるのに役立つ専門的なサービスも提案いたします。

2014年1月、MCRBは、主に中小企業の地域ビジネスと連携し彼らのCSRの理解を高めることとなる、ヤンゴンを超えたCSRネットワーク確立のため、Myanmar Business Coalition on Aidとのパートナーシップに同意しました。このことで、責任あるビジネスに向けた地域と国家間の連携の構築という結果がもたらされることを願っています。

セクター全体の影響評価

セクター全体の影響評価(SWIA)は、環境影響評価(EIA)および社会影響評価(SIA)、そして、EIA/SIAの方法論に基づくものの潜在的な影響を人権のプリズムを通して見るという人権影響評価(HRIA)によって確立された過程と手続きに基づいています。

既存の影響評価アプローチは、プロジェクトがデザイン・開発される過程で、ネガティブな影響を避けるまたは和らげるため、特定の場所での特定のプロジェクトの潜在的な影響を理解する目的で使われています。SWIAプロセスは、これらの方法論に基づいていますが、プロジェクト固有の代わりに、ローカルまたは外国企業からの潜在的な投資に対して、より幅広い将来を考慮したアプローチをとっています。それぞれのSWIAは、人権に特に焦点を当て、ビジネス・セクター全体が社会に与える影響をみます。多くのプロジェクトに基づいた影響評価と異なり、完了したそれぞれのSWIAが公文書になるということが意図されています。各SWIAの結果が今後企業によって行われる影響評価の基盤になることが期待されています。

観光(2013-2014)、石油とガス(2013-2014)、農業(2014-2015)、そして情報通信技術(2014-2015)という4つのセクターが、ミャンマーの経済発展への関係性、潜在的影響、そして、これらが提起し他のセクターにとって関心となる分野横断的な事項という観点に照らして、選出されました。



Sector-Wide Impact Assessments